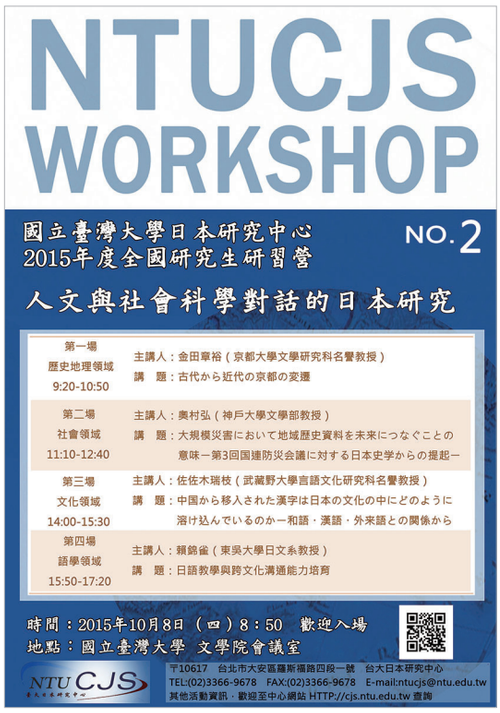
第二屆全國研究生研習營
人文與社會科學對話的日本研究

爲提供學生更宏觀的學習視野，日本研究中心於 2015 年 10 月 8 日假臺灣大學文學院會議室舉辦 2015 年度「人文與社會科學對話的日本研究」第二屆全國研究生研習營，針對歷史地理、社會、文化、語學等四門日本研究相關領域，進行師生深度對話。本次研習營由研究中心主任徐興慶教授主持開幕儀式，徐興慶教授於致詞時，表示非常榮幸能邀請到四位來自國內外的第一線日本研究學者蒞臨授課，共襄盛舉，希望各個學員能把握提問時間與學者們交流，以達到「人文與社會科學的對話」的目的。

▲中心主任徐興慶教授致詞

研習營爲上、下午各兩場總計四場的全天課程，上午的課程爲歷史地理領域與社會領域，分別邀請到京都大學文學研究科金田章裕教授以及神戶大學文學部奥村弘教授；下午的課程則分爲文化領域、語學領域，分別邀請武藏野大學言語文化研究科佐佐木瑞枝名譽教授、東吳大學日文系賴錦雀教授蒞臨授課。

本センターは、学生の学習視野を広げることを目的に、2015年10月8日に、2015年度「人文と社会科学の対話の日本研究」第2回全国大学院生ワークショップを開催した。地理歴史、社会、文化、語学の日本研究関連4領域について、教員と学生が深く議論を交わす機会を提供した。開会式では本センター主任の徐興慶教授が、「国内外の日本研究の第一線で活躍する4名の先生方をお招きし、このような会を開催できたことは大変光栄。参加者には、“人文と社会科学の対話”の目的を達成すべく、各セッションの質疑の時間を利用して、先生方と交流してほしい」とあいさつの辞を述べた。



2015.10.8

第一場 / 第 1 セッション　歴史地理領域

主講人 / 講演者：
金田章裕　（京都大學文學研究科名譽教授）

講　題 / テーマ：
平安京の建設と平安京・京都の変遷

▲金田章裕教授

課程摘要：

現今的日本京都府京都市中心地區舊時稱爲平安京，是日本 794 年到 1868 年期間的首都。桓武天皇於 794 年從當時的舊都長岡京遷都至平安京，當時平安京的街道設計參考中國唐朝的長安、洛陽，平安京的街道劃分也延續到現今的京都市街。街道風貌也隨著時代變遷產生變化，以 1922 年的市街圖來看，左京的部分保有了街道劃分與風貌，但右京相較於左京，則因農地化等因素

概要：

今日の京都府京都市街はかつて平安京と呼ばれており、794年、桓武天皇が長岡京から平安京に都を移してから1868年まで日本の首都だった。当時の平安京の都城は中国唐朝の長安や洛陽を参考に設計され、平安京の区画分けは現在にまで残っている。街路の様子は時代の変遷に伴い変化しており、1922年の市街図を見ると、左京には以前の街路区分や風貌の名残があるが、右京は左京と比べて、

街道已不復存在，特別是右京西南角的區域完全看不到舊時的街道遺址。

金田教授從平安時代、中世（鎌倉・室町時代）、近世（江戶時代）、近代各個時代闡述平安京的構造與變化，透過不同時期的平安京復原平面圖、歷史以及當時的名人、文學名作等進行說明，讓大家更容易想像到當時的街道風貌與風土民情。8 世紀末到 9 世紀的平安京基本上仍維持建設時的風貌，到了 10、11 世紀平安中期主要的政府機關、住宅區已經有集中在左京的傾向，11、12 世紀平安後期右京地區開始耕地化、建立莊園，都市機能朝左京集中發展的現象到了中世尤其顯著。近世時期 1625 年出版的『都記』是日本現存最古老的都市圖，從地圖上可以看出到了江戶時代左京依然是京的中心。1869 年明治天皇遷都至江戶（東京）後，天皇、朝臣等政府機關遷移，朝臣宅邸也大多拆除成爲後來的京都御苑，失去首都機能的京都開始發展近代產業，逐漸發展成今日所見的京都風貌。

農地化等の理由からすでにその形を失っている。特に西南角のエリアは、そこに以前の街路の名残を見ることはできない。

金田教授は平安、中世（鎌倉・室町）、近世（江戸）、近代の各時代から平安京の構造および変化を分析し、また聴講者が当時の街路や社会の様子を想像しやすいように、それぞれの時期の平安京復元平面図や歴史、当時の人物や文学作品等を示しながら説明した。8 世紀末から 9 世紀の平安京は基本的に建設時の風貌を維持したままだったが、10～11世紀平安中期になると主な政府機関や居住区が左京に集中するようになり、11～12世紀平安後期には右京区は耕地化や荘園化が進み、中世では、都市機能は左京側で集中して発展するという現象が特に顕著になった。近世期1625年に出版された『都記』は、日本に現存する最古の都市地図だが、それを見ると、江戸時代でも左京が京の中心だったことがわかる。1869年明治天皇が江戸（東京）に遷都した際、天皇や朝臣や政府機関も共に移動し、朝臣の邸宅の多くは取り壊され、後の京都御苑となった。首都機能を失った京都は危機感を強めながら、近代産業の発展を始め、今日の京都の姿が徐々に完成していくのである。

第二場 / 第 2 セッション　社會領域

▲奥村弘教授

主講人 / 講演者：
奥村弘　（神戸大學文學部教授）

講　題 / テーマ：
大規模災害において地域歴史資料を未来につなぐことの意味
—第 3 回国連防災会議に対する日本史学からの提起—

課程摘要：

以 1995 年阪神淡路大地震爲契機，日本社會對於大規模災害有了不同的認識與對應，但阪神淡路大地震迄今已 20 年，現在神戸的年輕一輩大多沒有經歷過當年的大地震，因此該如何將地震的經驗、記憶傳承給後世是一個非常重要的課題。大規模災害歷史資料的保存工作主要是由地方居民以及歷史研究學者進行，以阪神淡路大地震爲契機成立的「歷史資料網路」（簡稱史料網）至今持續進行自然災害的歷史資料保存工作，活動遍及全國。「史料網」的歷史資料保全活動從 1995 年開始迄今已進行到第六期，目前主要的工作在保存、復原東日本大地震的資料，除了「史料網」外，日本各地都有歷史資料保全團體；現在也開始注重與地區居民合作，讓地區居民也一同肩負傳承地區歷史、文化遺產的工作。

概要：

1995年の阪神淡路大震災をきっかけに、日本社会は大規模災害に対するさまざまな認識や対応を持つようになった。しかし阪神淡路大震災から20年が経ち、現在の神戸の若者の多くは当時の大地震を経験しておらず、それゆえ地震にどのように立ち向かえばいいのかという経験や記憶を後世に伝えていくことが、非常に重要な課題となっている。大規模災害の歴史的資料の保存は、主に地元住民と歴史研究家によって進められ、阪神淡路大震災をきっかけに「歴史資料ネットワーク」(史料ネット)が立ち上げられた。この史料ネットは、これまで自然災害の歴史資料の保存作業を行っており、その活動は全国に広がっている。1995年に始まった「史料ネット」の歴史資料保全活動は第6期を迎えており、現在の主な作業は東日本大地震の史・資料の保存および復元である。「史料ネット」の他にも日本各地に歴史史料の保全団体があ

問題討論時，其中一名學員問道：「史料網的史料保存計畫是長期性還是短期性？明年保存重點爲何？」對此奥村老師的回答如下：史料網的目前主要工作還是在保存311大地震時的資料，被海嘯浸濕的文物我們試著用冷凍保存復原，現在冷凍復原工作已完成，接下來則是跟當地居民一同清除文物上的污泥，其實只要有災害就有工作，因此難以訂定目標，像是前陣子關東地區的水災，我們也在災後前往災區的藏總市區公所進行保存、復原工作。

▲學生提問

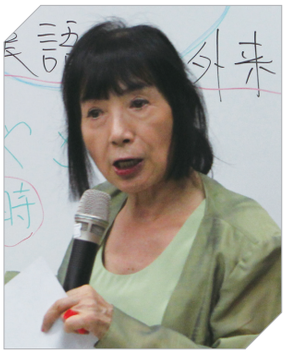
り、最近では地域住民との協力に力を入れはじめ、ともに地域の歴史や文化遺産を後世に受け継いでいくための活動をしている。

討論の際、「史料ネットの史・資料保存計画は長期的なものか、それとも短期的なものか」という質問があった。これに対して奥村教授は「現在の史料ネットの主な作業はやはり311大地震の史・資料の保存。津波で流され水浸しになった文書も冷凍保存で復元を試みており、今はその作業も完成している。次は地元住民とともに文書上の汚れや泥を落とす作業を行う。実際この仕事は災害が起こってはじめて必要となるため、目標を定めることは難しい。」と答えた。

第三場 / 第 3 セッション　文化領域

主講人 / 講演者：
佐佐木瑞枝（武藏野大學言語文化研究科名譽教授）

講　題 / テーマ：
中国から移入された漢字は日本の文化の中にどのように溶け込んでいるのか－和語・漢語・外来語との関係から


▲佐佐木瑞枝教授

課程摘要：

第三場文化領域的主講人請來在各國巡迴演講而聞名的教授——佐佐木瑞枝老師。在演講中，首先提及日語依來源可分成三大

概要：

第三セッションでは、世界各国で講演を行われている佐々木瑞枝教授をお招きした。日本語はその起源から、日本独自の和語、中国

▲學生提問

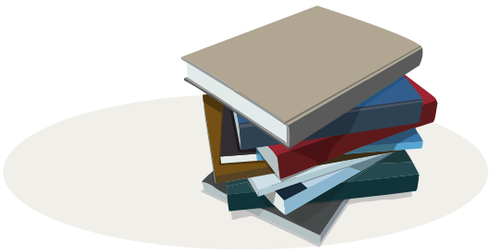
類：日本原有的和語、從中國傳入的漢語及開港後從西方傳進的外來語。佐佐木老師請在場的學員分組討論並分辨出一首登載在朝日新聞童詩中的和語、漢語及外來語。對於外來語，當場學員們都能很準確地分辨出，然而對漢語與和語的辨識就不是那麼容易。佐佐木老師說明和語及漢語並不是看漢字的有無來判斷，而是從日語發音是音讀或訓讀來區分。

接著佐佐木教授以一篇政治新聞報導爲例，和童詩比較，發現童詩以和語爲主，新聞文章則使用較多漢語。這種用法的差異是因爲日本人使用和語、漢語或外來語有細微不同的語感所致。譬如，比起「宿屋（やどや）」，「ホテル」給日本人的印象更現代、乾淨及明亮。

和語和漢語的另一個明顯差異在於漢語主要使用在書面文章，這是因爲日文裡的漢語同音異義字較多，不方便口語使用。

から伝わった漢語、開国後西洋から伝わった外来語、の３つに分類することができる。佐々木教授は会場の学生をグループ分けし、ある児童詩に出てくる和語、漢語、外来語の区別について討論させ、ホワイトボードに書かせた。学生は外来語については正確な区別ができたが、漢語と和語は必ずしも簡単ではなかったようだ。教授は、この２つの違いは漢字の有無では判断できず、ポイントは発音が中国語に近いかどうかであると解説した。

次に教授は学生に政治ニュースを見せ、先の児童詩と比較させた。和語中心の児童詩と比べてニュースでは漢語が多く、このような用法の違いは、同じ意図を表すとしても、日本人の和語、漢語、外来語の使用には、微妙な語感の差が生まれるためである。例えば日本人にとって「ホテル」は、「宿屋（やどや）」と比べ、より現代的で清潔、そして明るい印象を与える。この日本人の和語・漢語使用の差異を明らかにすべく、教授はまた別の文章を用いて学生に考えさせ、「漢語は書き言葉に多い」という違いがあることに気づかせた。これは日本語の漢語には同音異義語が多く、話し言葉として用いるのに適さないからだという。



第四場 / 第 4 セッション　語學領域

主講人 / 講演者：
賴錦雀（東吳大學日文系教授）

講　題 / テーマ：
日語教學與跨文化溝通能力培育

▲賴錦雀教授

課程摘要：

2015 年正值臺灣日語教育雙甲子的 120 周年。賴老師簡介臺灣的日語教育史，並反思臺灣現行日語教育政策的得失。臺灣光復初年，學日語被視爲不入流的，但仍然爲臺灣培養出許多日語教師、日本研究學者。回顧臺灣現行的日語教育，與國外相較下，不難發現在跨國文化學習方面的不足。不僅是日語，臺灣的外語學習似乎學的僅僅是語言本身，忽略文化的瞭解。

概要：，

2015年は台湾日本語教育の120周年である。頼教授は台湾における日本語教育史を紹介し、現行の日本語教育政策を振り返った。日本による統治が終わった頃、台湾では日本語を学ぶというのはあまり流行らないことだったが、それでも多くの教員や日本研究者を生み出した。現行の台湾における日本語教育は他国と比べて、異文化学習面で足りない部分があることが明らかである。日本語に限らず、台湾の外国語学習は、僅かに言語そのものを学ぶだけで、その文化理解の面は見落とされている。

なぜ文化に対する理解がなければ本当の意味で外国語をマスターしたと言えないのか。例を挙げると、中国語の「一日不見如隔三秋」や日本語の「嘘八百」における、それ自体に意味のない数字の使用は、ある文化の数字に対する認識を包括しているのである。文化への認識が乏しいと、ただ知識を詰め込んだ

▲結業學生獲頒研習證書

然而，缺乏文化瞭解將無法眞正掌握一門外語。例如，中文說「一日不見如隔三秋」，或者日文說「嘘八百」，這些虛數的應用涵蓋了一個文化對數字的認識。在缺乏這些文化的認識下，語言將淪爲死背硬記、囫圇吞棗，只知其然不知其所以然。

總結來說，臺灣外語教育在缺乏健全的外語政策及評量機制之下，加上教育部要求各教育機構提報通過外語檢定測驗之合格人數，導致考試領導教學，進而使教學更加陷入困境無法增加教學深度的惡性循環。今後的日語教學應國際化與在地化並重，達成「立足臺灣，理解日本，放眼國際」的目標，更期許臺灣學生能以自主能力和語言能力，再配上複數專業能力的加分，成爲跨文化溝通的優秀人才。✦

だけの言語となり、ことばの背景を理解することはできない。

台湾の外国語教育は、外国語政策や評価の仕組みが整っておらず、加えて教育部が各教育機関に外国語能力検定の合格数を報告するよう求めているため、テスト中心の授業となってしまい、内容を深めていくことができないという悪循環にますます陥ってしまう。日本語教育は国際化と現地化の両方を重視するべきであり、それによって「立足台灣, 理解日本, 放眼國際（台湾に立って日本を理解し、世界に目を向ける）」の目標を達成していこうと呼びかけた。

最後に教授は、台湾の学生が自主性と語学力、そしてさまざまな専門知識をもって、異文化コミュニケーションにおける優秀な人材になることを期待していると述べて講義をしめくくった。✦